



平成 28 年度厚生労働省 社会福祉推進事業

第 2 回自立相談支援実践研修セミナー

生活困窮者自立支援制度において重視される「アウトリーチ（訪問支援）」。支援手法の困難性から公的支援としてのノウハウの検証・蓄積が遅れており、一部では個人的資質に頼った訪問支援が展開されるなど課題が明らかになってきている。生活困窮者自立支援法の理念を遵守しつつ、支援に対する拒絶感、警戒感を持つ当事者にいかにアプローチすべきなのか？事前準備からアウトリーチの実践、その後の社会参加・自立に至るまでのプロセスを各分野で定評のある支援者と共に考え、学ぶ。

平成 29 年 3 月 16 日（木） 10：00～17：30
3 月 17 日（金） 9：30～16：30

場所：九州ビル 5 階 大会議室
（福岡県博多区博多駅南 1 丁目 8 番 3 1 号）

- ◇定員 60 名
- ◇参加費 無料
- ◇申込締切 平成 29 年 3 月 3 日（金）



<プログラム(予定)>

3 月 16 日（木）【1 日目】

- 10：00 ●開会
- 10：10 ●実践事例発表及びシンポジウム
『生活困窮者自立支援制度におけるアウトリーチ（訪問支援）
～困窮し孤立する当事者にどのようにアプローチするのか？～』
- 13：00 ●講義及び演習
アウトリーチと支援ネットワークを活用した多面的援助アプローチ
～機関誘導型、関与継続型アウトリーチ手法の習得を目指して～
※詳細別紙参照
- 18：00 ●情報交換会（希望者のみ）

3 月 17 日（金）【2 日目】

- 9：30 ●グループワーク Part I
（事例検討：ワールドカフェで考えるチーム支援）
- 13：00 ●グループワーク Part II
（事例検討：チームで考えるチーム支援）
- 15：00 ●グループワーク Part III
（地域課題から地域づくりを考える）
- 16：30 ●閉会

◇主催：一般社団法人 生活困窮者自立支援全国ネットワーク
（協力）特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス
◇お問合せ先：特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス
TEL：0954-22-3423 FAX：0952-97-8235 E-mail：ssf-kensyu@student-support.jp

講師紹介(予定)

1日目

榎部 武俊(一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 副代表)



1951年生まれ。釧路生活福祉事務所主幹として「生活保護世帯自立支援釧路モデル」を牽引。2012年から一般社団法人釧路社会的企業創造協議会副代表。生活困窮者の働く場づくりを担う。2010年度厚生労働省社会・援護局「生活保護受給者の社会的居場所づくりと新しい公共に関する研究会」委員、2012年度社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」委員、2013年から生活困窮者自立支援に係る釧路市・釧路管内生活相談支援センター長。

山田 耕司(ホームレス自立支援センター北九州 施設長)



大学中より、北九州越冬実行委員会(当時)の炊き出しボランティアに参加。2004年7月より、NPO法人北九州ホームレス支援機構(当時)に入職。ホームレス自立支援センター北九州(北九州市委託)の巡回相談や生活相談を経て、2009年4月より同センター施設長に就任。近年では、ホームレス自立支援に加え、若年困窮者の就労支援や子どもの学習支援や世帯の生活支援など、生活困窮者全般の支援事業の現場統括を行う。2015年4月より、NPO法人抱樸「就労・自立支援事業部」及び「ソーシャルビジネス事業部」担当常務に就任。

谷口 仁史(特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス 代表理事)



大学在学中から不登校、ニート等を対象とするアウトリーチ(訪問支援)に取り組む。卒業後、有志と共に法人設立。昨年度までに20万2千件を超える相談に携わった他、ネットワークの構築や社会的受け皿の創出、執筆や講演など多彩な活動を通じて、孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指す。近年はその実績から公的委員を歴任。「社会保障審議会特別部会」、「子ども・若者育成支援推進点検・評価会議」等政府系委員も務めた他、NHK『プロフェッショナル仕事の流儀(第275回 2015年8月31日放送)「寄り添うのは、傷だらけの希望」』出演。

2日目

奥田 知志(特定非営利活動法人抱樸 理事長)



1963年、滋賀県大津市にて誕生。1982年に関西学院大学入学と同時に日本最大の寄せ場(日雇い労働者の街)と出会う。以来、生活困窮者支援・ホームレス支援に携わる。1990年、現在の日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師に就任。同時に北九州におけるホームレス支援団体であった北九州越冬実行委員会に参加し、事務局長となる。2000年、NPO法人北九州ホームレス自立支援機構設立、理事長に就任(2014年7月NPO法人抱樸と名称変更)。2006年、NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク設立、理事長に就任する。東日本大震災発生後、震災支援活動を開始、2011年11月には公益財団法人共生地域創造財団設立、代表理事となる。2014年12月に一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク、代表理事となる。

鈴木 晶子(一般社団法人インクルージョンネットかながわ 代表理事)



心理的なケアやソーシャルワーク、就労支援、地域コーディネートを中心とした寄り添い型支援を行う。現在、生活困窮者を支援する一般社団法人インクルージョンネットかながわ代表理事。鎌倉湘南地域を中心に活動している。そのほかに、貧困世帯の高校生を支援するNPO法人パノラマ理事。臨床心理士。
【出演メディア】NHKスペシャル 2014年12月28日放送「子どもの未来を救え～貧困の連鎖を断ち切るために～」、NHKクロースアップ現代 2014年1月27日放送「あしたが見えない～深刻化する“若年女性”の貧困～」ほか

下記の参加申込書をFAXでお送りいただくか、同内容をメールにてお送りください。

平成 28 年度厚生労働省社会福祉推進事業

第 2 回自立相談支援実践セミナー参加申込書

FAX : 0952-97-8235 E-mail : ssf-kensyu@student-support.jp

(フリガナ) 氏名		情報 交換会	<input type="checkbox"/> 参加(4,000円) <input type="checkbox"/> 不参加
所属	<input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 主任相談員 <input type="checkbox"/> 相談支援員 <input type="checkbox"/> 就労支援員 <input type="checkbox"/> その他 ()	連絡先	TEL :
			E-mail :
住所 (所属先又は 自宅)	〒		
自由記載欄(研修に対する要望等)			

※情報交換会におきましてはアルコールの提供も予定しておりますので、情報交換会参加ご希望の方は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

【3/16(1日目)午後の研修概要(予定)】

1. 目標

アウトリーチ（訪問支援）に携わる援助者として必要な資質能力の基礎を身につけるため、訪問活動に関する様々な論点を踏まえつつ、その支援形態の特殊性について理解を深め、機関誘導型、関与継続型のアウトリーチを中心に支援現場で求められる実践的なノウハウの獲得を目指す。

各論ではアウトリーチを用いたネットワーク活用型の多面的援助アプローチを中心に取り扱い、インテークから支援終結に至るまでの各段階における留意点について講義と実例を用いたグループワークを通して共有する。その際、映像や画像、音声データなどを積極的に活用することで、経験の差や専門性の違いがあっても容易にイメージが共有でき、演習、グループワーク等に関しても安心して参加できるように工夫する。

2. 内容

ア 施設型支援とアウトリーチの違いについて【講義】

概論①～「急激な社会変化に支援現場は適切に対応できているのか？」佐賀県における実践を通じてアウトリーチの有用性について考える～

概論②～「引きこもり問題はなぜ『カウンセリング』のみで解決できないのか？」訪問現場における実例及び改善率9割のNPO活動を通じて論点整理を行う～

概論③～「『施設型』支援とは異なるアウトリーチの特殊性とは？」厚労省のモデル事業における最新の統計データ等から事例検討に当たっての前提を検証する～

イ 各段階における対応方針と留意点について【講義・グループワーク】

各論①～支援対象者と出会うまでの事前準備が成否の「鍵」を握る～

- ・相対的分析と関係性の構築を前提としたインテーク
- ・支援者としての自己分析を含む訪問のための事前準備
- ・分析に基づく間接的な働きかけと持続性及び発展性に考慮した枠組設定

各論②～「ワン・ダウンポジション」から始める「導入期」～

- ・施設型支援とは異なる訪問現場での援助手法
- ・緊急時を想定したリスクマネジメント
- ・本人と会えない場合のラポール形成とアプローチ手法

各論③～支援対象者から信頼を得て関係性を適正化する「安定期」～

- ・効果的な関係性の築き方と折衷的援助手法
- ・認知行動療法を活用した中間的なトレーニングメニューの設定
- ・シェイピング等を用いた支援段階の移行

各論④～支援対象者が抱える困難に多面的にアプローチする「展開期」～

- ・多重困難家庭への対応を想定したカンファレンス
- ・修学や就労に向けた心理的負担等の軽減の在り方
- ・困難の解消に向けた支援ネットワークの構築と活用方法

各論⑤～関係性の再調整を行い援助者としての役割を終える「終結期」～

- ・自力を高め支援者や制度への依存を生まない対応の在り方
- ・家族関係の修復による環境の安定化
- ・「移行」「分散」「離脱化」による「自力」への移行

ウ 困難事例に対する多面的アプローチについて【講義・グループワーク】

まとめ①

～「『自立相談支援事業におけるコーディネーター』に求められる役割とは？」インテークから展開期に至るまでのグループワークを通じて論点整理を行う～

まとめ②

～「困難解消に向けた『多面的援助アプローチ』とは？」複合的に困難を抱えた子ども・若者の自立事例を用いて本演習のまとめを行う～

まとめ③

～「社会的に必要なもの、足りないものは協働で創り出す！」伴走型、協働型、創造型の新たな公的支援の枠組と専門性を組み込んだ地域社会の再構築について考察する～